

# 土佐紀行

黒潮ジムの興行は十二時半に始まり  
三時前には終わった。高知駅の外国人選手  
一行の宿舎に戻ったのが三時半で外はまだ明く  
フロントに四時で車を頼むとその前に来た。  
二時間ほど高知見物をしたといふと、  
運転手の横田さんが順路を組んでくれた。  
桂浜から太平洋を臨む坂本龍馬記念館が



第一目標で、着いたのが四時半。肉館まで三十分  
しかなかった。龍馬の師勝海舟生誕二百年展が  
催されており、海舟龍馬木戸孝允の書翰が  
数多く陳列されている。その達筆に感心した。  
龍馬が暗殺されたとき、この血痕が付着した屏風  
あり一寸生々しかった。

龍馬は非常に筆まめな姉乙女の  
書状の多さを長さに驚いた。龍馬は海舟  
孝允より書の腕は劣るが、しなやかな筆を  
意思伝達の道具として操るとには長けていた。



五時閉館間際、ミュージアムの土産売り場に  
素晴らしくい小冊子が——安価で販売  
されていった。それらを数種類、それぞれ龍馬  
の字真を片面とした葉書を数多く求めた。  
五時過ぎに記念館を退出——桂浜まで  
車に乗った。浜の砂の上に像が立っているのと  
思ったら小高い丘の上から海を眺めてみる。  
道軒の横田さんは親切に私が龍馬像の前に  
立つ構図の字真を撮ってくれたら肝心の龍馬の  
顔が切れていた。



その水戸市内を通り高松城（向かい）。  
天守閣はもう閉じ、城郭を外から  
眺めたのみ。

坊さんが恋慕した娘のちねに人ぎしを  
買ったといふは、平橋を通りホテルに居た。

土佐の男、龍馬や中岡慎太郎の男、ばい  
顔構えが何となく印象に残った。

土佐に来た

龍馬記念館

行ったとき



令和五年二月末日

